

学内分煙 すっきり

花巻市下根子の富士大(小山田了三学長)の佐々木安廣教授のゼミに所属する1年生8人は、学生や社会人の喫煙状況調査の結果をまとめた。健康学が専攻の佐々木教授のゼミ生が5年前から実施。学生喫煙者の大幅減少や学生と社会人の認識の差など、興味深い結果に学生たちはあらためて禁煙の重要性を訴えている。

ゼミ生のほとんどは運動部の所属。スポーツと健康のかわりを学ぶ過程でたばこの害に着目し、昨年7月～9月の3カ月間アンケート調査を行った。

「現在たばこを吸っていま

富士大生の喫煙率 80% 42%



すか」との問いに、学生の41.9%が「吸っている」と回答した。3年前が80%、前回は62.2%で、学内で分煙を開始した2000年を境に、喫煙率が確実に下がっていることが明らかになった。

たばこを初めて吸った時期について、学生喫煙者は中学生が34.2%、次いで高校生28.2%、小学生17.3%の順だった。驚くのは「小学生未満」との答えが4.9%もあり、

喫煙の低年齢化が進んでいる。

学生と社会人の比較では、喫煙の理由に学生は「間が持てる」が30.3%でトップ。社会人は「精神が安定する」が33.9%だった。

さらに「今後たばこを吸う人が増えると思うか」との問いに、学生の50.8%が「増える」と答える一方、社会人は69.2%が「減る」とするなど、学生と喫煙者への風当たりが強い

佐々木ゼミ 2月6日
岩手日報記事より

社会人との意識の差が浮き彫りとなった。

同ゼミ幹事長の山陰洋佑さん(18)は「今回の調査で分煙が喫煙の低下に役立つことが分かった。喫煙者の低年齢化が目立ち、小学生から禁煙教育が必要では」と話す。佐々木教授は「先進国の喫煙率は20%台がほとんど。日本は分煙が徹底されてなく立ち遅れている。周囲の人が強くたばこの害を訴えるべきではないか」と指摘する。

アンケートの対象は、同大学生400人(男子345人、女子55人)と、同市役所や市内の民間企業に勤める社会人233人(男性159人、女性74人)を加えた計633人。(記事・写真「岩手日報社」提供)

富士大学附属地域経済文化研究所

地域経済文化研究所は、地域社会の発展に寄与する諸分野の研究および調査を行うことを目的として、活動を行っている研究機関です。

また、研究所は地域社会の発展に寄与する活動の一つとして、地域社会の生涯学習活動への寄与も行っていきます。その具体的活動は花巻市及び北上市における公開講座としての市民セミナーの実施です。花巻市民セミナーは17回、北上市民セミナーは15回を数え好評を得ています。これに加えて昨年は、岩手県教育委員会の委託事業として「富士大学開放講座」を行いました。研究所の活動に対して、平成12年11月には、花巻市より「教育の振興に寄与した功績が評価され、「社会教育部門」で教育表彰を受けています。



また、生涯学習活動の推進の延長で当大学を取り巻く広域市町村2市4町村で構成されている広域市町村圏組合と提携し、講演とシンポジウムを内容とする地域フォーラムを開催しており、これまで5回(去年は湯田町地域)開催しています。

機関誌『研究年報』の刊行は、論説・調査研究・研究ノート・地域フォーラムを主な内容として収録し、これまでに10号を発行し関係大学・関係機関へ配布しています。

スキー実習 APPI高原スキー場

2月19日～21日APPI高原スキー場で行われた体育実技のスキー実習が無事終了し、平成13年度の集中講義がすべて完了した。今回行われたスキー実習の受講者は初心者から上級者までの79名。



受講生は、吹雪もあり、快晴の日もあった3日間の講習で、山の厳しさを知ると共にベストを尽くすことの喜びと感激を味わい、2晩共にした仲間との交流も深まり有意義なスキー実習であったと実感していた。

平成14年度入学式 平成14年度入学式が本学記念体育館にて4月6日(土)10時から行われます

学事予定表

4月	10月
入学式 履修登録 前期授業開始 健康診断 新入生学外オリエンテーション	紫陵祭
5月	11月
教養演習旅行 学友会総会 図書館専門職員養成講習受付開始	演習発表会 学友会総会
6月	12月
学内スポーツフェスティバル 東北総体	海外研修旅行 冬季休暇
7月	1月
図書館専門職員養成講習開始 (9月まで)	集中講義 後期授業再開 センター入試
8月	2月
夏季休暇 集中講義	後期試験 スキー実習
9月	3月
父母懇談会 後期授業開始 花巻まつり	卒業判定 卒業式

広報委員会よりお知らせ

皆様のご意見、ご希望をどしどしお寄せ下さい。

連絡先は広報室まで

原 久雄(広報室長) 井手 俊一(広報室課長) 小田桐 恵仁・高橋 直樹
E-mail kouhou@fuji-u.ac.jp



この紙は再生紙を使用しております。

広報

富士大学

Vol.6

2002. 4.1 発行

富士大学 経済学部 / 経済学科・経営法学科 〒025-8501 岩手県花巻市下根子450-3 TEL 0198-23-6221 FAX 0198-23-5818 http://www.fuji-u.ac.jp/

希望を抱いて卒業
学長表彰
主な就職先
日本大学生訪韓研修団
参加報告
トップリーダー研修会
大学入試センター試験
本学で開催
Spring Camp
スポーツセンター利用状況
富士大スポーツ
ホッケー部創部
学内分煙すっきり
OBからの一言
高校生童話大賞
富士大学附属地域経済
文化研究所
スキー実習
学事予定表
開かれた大学をめざして



万感を胸に!!

希望を抱いて卒業

平成13年度卒業式が3月22日(金)に本学記念体育館にて行われ、368名の卒業生がキャンパスに別れを告げました。式典には、多数の来賓、卒業生、保護者を合わせ約800名が参列され、卒業生総代の小笠原健さん(牧野ゼミ)に小山田了三学長より卒業証書が授与されました。

小山田了三学長は、卒業生に対し、「何事にも屈しない信念で自ら困難に立ち向かう主体性をもちながら、気高い心を持って目的に向かって歩んでください」と、はなむけの言葉を贈りました。

これを受け、答辞として安部晴子さん(前田ゼミ)は、「若者らしい発想と視点を持ち続け、社会を少しでも良い方向に導くために努力していきたい」と述べました。卒業生の皆さん



の人生における成功を心から念じ、ご健闘をお祈りします。



卒業生にエールを送る



地域経済文化研究所長
教授 藤田 康雄

学業成就、晴れて卒業おめでとう。学生生活の数々の思い出を心の棚に整理し、納め切れたでしょうか。その中で「自分探しの宝物」は忘れなく包み込み大事にしてください。この作業はエピソード。この課程で既に社会人としてのプロローグが始まっています。

ある卒業生が来校し、「先生、ヘミングウェイの小説で『日はまた昇る』というのがありますが誰のために昇るのでしょうか。」と質問

しました。「君のためでしょう。何故なら君は宮沢賢治の『風とゆききし、雲からエネルギーをとれ』ということ勉強したでしょう。それが君の自分探しの宝物、忘れてしまいましたか」と答えました。社会人になり、それぞれの道でライフスタイルを確立していくことでしょう。その課程で「自分探しの宝物」をひもといってみて、前進して下さい。壁は越えらる。君自身で。

富士大スポーツ

数1,700名を超えるマンモス大会で、東北各地から強豪チームが集まり、男子団体98チームが参加、その頂点に富士大学卓球部が立った。

準決勝では秋田県の国体メンバーを揃える夕凧クラブを3-2で下し、決勝では、前年度優勝 全国クラブチーム選手権大会第3位 のエムアイクラブ(岩手)を退けての価値ある優勝だ。

2002年最初の試合に幸先の良い結果となり、新年度の大会を占う大会として、満足のいく成績であった。

また個人戦では、駒形元氣(1年・弘前実業出)が第3位と健闘した。

卓球部

11年ぶり2回目の優勝

第71回北日本卓球大会が平成14年1月26日(土)~27日(日)花巻市総合体育館にて行われ、本学卓球部が男子団体で見事11年ぶり2回目の優勝を果たした。

北日本卓球大会は参加入



ホッケー部創部



西田範次氏 監督に就任

勝した。89年から6年間、全日本ユースナショナルチーム監督を務めた。

西田氏は「全国から有力な選手を集め強化し、3・4年のうちにインカレベスト8、そして日の丸を付けた選手、ナショナルチームを作りたい。必ず成功させてみせる。またアテネオリンピックに富士大の選手を出す事を目標にがんばりたい。」と力強く抱負を語り、これからの躍進が期待される。

監督としての優勝回数
全国高等学校選抜
ホッケー大会 10回
全国高等学校総合体育大会
ホッケー選手権大会 4回
国民体育大会秋季大会
ホッケー競技会 10回

バスケットボール女子

インカレ初出場

平成13年11月25日(日)~12月2日(日)に東京代々木第二体育館で行われた第48回全日本学生バスケットボール選手権大会に、本学の女子バスケットボール部が初出場し、初戦突破を果たした。

2回戦は前年度優勝の強豪愛知学泉大学と当り、ダ

ブルスコアでの惨敗を覚悟したが、よく食らい付き健闘した。来年度へ向けての課題が明確になり、また希望が見えた良い試合であった。

92-43 聖カタリナ女子大学(四国1位)
2回戦 富士大学 58-92 愛知学泉大学(前年度優勝校(大会5連覇))



陸上競技部

日本選手権競歩競技

東北学生新記録 1時間45分38秒

1月27日神戸アイランド周回コースで行われた20km競歩日本選手権にて田中久美子(1年・白石女子出)が1時間45分38秒の東北学生新記録で10位に入る健闘をみせた。

今回の大会で上位に入った田中さんは、現在、東北

はもちろんのこと全日本学生生のトップクラスにランクされ、ますますの活躍が期待される。陸上競技部の監督である佐藤伴行氏は、「まだ1年生で伸び盛り、物怖ししない性格でもあるので、今後どこまで記録を伸ばせるか楽しみです。」と語る。



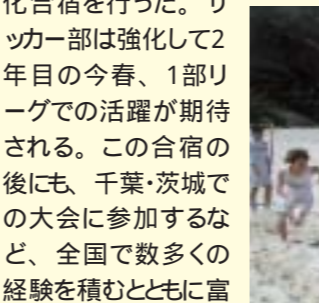
健闘する田中久美子さん(左端)

サッカー部・陸上競技部

~ 沖縄で合同強化合宿 ~



サッカー部、陸上競技部の総勢50名は、3月2日より2週間、沖縄・渡嘉敷島で合同強化合宿を行った。



陸上競技部

士大サッカー部をアピールしてきた。

陸上競技部は、気温25度のなか、毎日砂浜でのトレーニング、30km走など、とことん走り潰けをしてきた。沖縄で作られた力を、東北の地で大いに発揮してもらいたい。



サッカー部

Spring Camp ~各クラブ 全国各地で展開~

昨年11月から約4ヶ月間、雪に閉ざされグランドで活動できなかったアウトドアスポーツの野球・サッカー・陸上、そして今年度より本格始動する女子ソフトボール部が3月に全国各地でキャンプを行った。4月中旬から開催される硬式野球の春季リーグ戦を皮切りに各競技大会での「優勝」に期待したい。

女子ソフトボール部

~本格的な活動を開始~

新入生15名と監督・コーチは創部して初めての合宿を行った。関東での合宿11日間は練習のほか、日本体育大、東京女子体育大や各高校と

のオープン戦を行った。5月のリーグ戦に向け、大学でのレベルを肌で感じ、経験してきた選手たちに今後の期待は大きい。

準硬式野球部

関東遠征

~今年こそ東北一に~
3月10日から茨城県・守谷市で強化合宿、東京でオープン戦5試合を行ってきた。

ここ数年、東北地区2位が続いており、今年こそは「東北一」「全日本出場」を合言葉に30名の部員は、久々のグランドの上で汗を流した。



硬式野球部

~北東北リーグ優勝、そして神宮出場を胸に~

6月に神宮球場で開催される全日本選手権大会出場に向け、総勢100名の部員全員でのキャンプ。2月下旬に

岩手県・陸前高田で第1次キャンプを行った後、3月の前半は、茨城県・波崎町で第2次キャンプ、後半は大阪から各地に転戦、オープン戦18試合を行ってきた。



トップリーダー研修会

平成14年3月1日(金)~2日(土)の日程で学友会役員(執行委員)10名と学生委員(教職員)7名が平成14年度学友会の体制の強化を目的とし、合同の研修会が実施されました。

主な内容としては、学友会組織の充実・役員の意識の向上・学内行事の活性化といったテーマを取り上げ、具体的な活動方針、あるいは、学内行事に向けた取り組みについて活発な意見が出されました。

化、ボランティア活動の推進、学生間のコミュニケーションの機会を作ることで具体的な活動内容が提案されました。

最後に出席者全員で、取り組む事を再確認し、有意義な研修会となりました。学生の皆さんには、より良い学生生活を送るために、今後一層のご協力をお願いすると共に、学友会の活動に対するご意見ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。

学友会 執行委員長 荒井 敏隆

また、ゼミ単位の活動強



学長表彰

学業成績優秀表彰者

小笠原 健さん
安部 晴子さん
紺野由美子さん
田中 知里さん
小松 久孝さん

学術論文優秀表彰者

木村 将人さん
「電子署名に伴う問題点についての一考察 - 日本における電子署名の技術と法的整合性 -」

課外活動優秀表彰

佐藤 裕美さん(柔道部)

以上の方が小山田了三学長より表彰された。



主な就職先

富士電機	川徳	岩手県警察本部
大正製薬	北上信用金庫	岩手県職員
万有製薬	北東北セキスイハイム	岩手県立学校
コジマ	岩手トヨタ自動車	マリンフーズ
ホームック	トヨタカローラ八戸	仙台進学プラザ
サイゼリヤ	トヨタ東京カローラ	八戸グランドホテル
ドン・キホーテ	さがみ農業協同組合	ヤマト運輸
東北ミサワホーム	東京むさし農業協同組合	みちのくジャパン
ツルハ	岩手県経済農業協同組合	東北住建
西尾レントオール	みちのく村山農業協同組合	日本取引
第一生命保険	清和病院	むらかね
アマタケ	陸上自衛隊	日本ユニコム
コマツ岩手	埼玉白岡町消防署	バイタルネット
ワイズマン	岩泉町役場	日栄
岩手データマシ	住田町役場	岩手広告社

日本大学生訪韓研修団参加報告(第2報)

日韓文化交流基金主催のこの事業に、本学の平間亮君が、全国の大学から選抜された18名の学生の一員として韓国に派遣されたが、今回は第2報として訪韓で強く印象に残ったことを、紙面の関係もあり2点に絞ってごく簡単に報告してもらった。

平間 亮(3年) (宮城 柴田高校出身)

1.韓国経済を支配しているもの

はじめに驚いたことは、あれだけ発達した車社会の中で走っている車のほとんどが「現代」の車だったということである。これに代表されるように韓国の経済は、経済史的には「親族の支配下にある多角的大企業集団」と定義される「現代」のようないくつかの大財閥によって支配されている。このため中小企業が育ち難いなど多くの課題が生じている。今後それらの課題解決のために国としてどのような施策をとる

か、また、そのために財閥自身が改革に向けてどのような意思を示すか、今後の韓国を考えるときわめて興味深い問題である。

2.軍事境界線隣接地域を訪れて

韓国と北朝鮮が国境の北緯38度線を境として各々2キロずつ、厳戒地域として一般人の立ち入りを禁じている。

そしてこの地帯の道には万が一戦争が起きた時に備えて、爆破させて道を塞ぐためのトンネルが多数造られていた。平和に慣れた私達にはインパクトの強いものだった。また互いに双眼鏡などで見える範囲にいたずらにたくさんの明かりをつけたり、多くの田畑を作るなどお互いを強く意識した様子が感じられた。このことは徴兵制度にも現れており、同じ民族が分断され互いに牽制し合っている姿は悲しい。一日も早く平和的に解決されることを祈りたい。

大学入試センター試験本学で開催

平成14年1月19日(土)・20日(日)の2日間にわたり、本学で大学入試センター試験が実施された。このセンター試験実施に関しては、岩手



県南の各高校から「富士大学でもセンター試験を実施して欲しい」と言う声大きいこともあり、今回のセンター試験の導入に踏みきった

ものである。本学では花巻南高校、花巻北高校・黒沢尻北高校、の花巻、北上地区の進学校が対象で、648人が受験した。本学では受験会場としては珍しく、各高校の控え室などを設置、高校の先生方からも、「控え室があり生徒はとても受験しやすかったようだ」など、なかなか好評だった。

試験開始前には、後輩の応援団から受験生にエールを送る場面もあった。(写真・下)

